



機甲教導連隊の新隊員教育に密着 同連隊初の女性隊員も

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は7月15日（水）、陸上自衛隊駒門駐屯地（御殿場市）において、機甲科に配属された新隊員の教育訓練を取材した。

戦車の運用や偵察などを任務とする機甲科部隊の隊員の教育を担う機甲教導連隊は、同駐屯地に昨年3月に新編された。自衛官としての基礎教育を終えた隊員33人（内女性6人）が、機甲科の専門的な知識や技術を身に付けるべく、現在同連隊で教育を受けている。女性隊員が同連隊で教育を受けるのは今年が初めて。この日は実際に戦車に乗り込み、模擬弾や機関銃などを搭載する訓練を行った。

数十キロの弾や機関銃を、安全に留意しながら重量挙げのように頭の上まで持ち上げて車上にいる隊員に渡す動作や、機関銃の車体への取り付けなどを交代で体験。狭い車内での動きや細かな部品の扱いに苦戦しつつも、教官から丁寧にコツを教わり、限られた時間の中でしっかりと技術を身に付けようと訓練に励んでいた。女性隊員の一人は「機甲科で活躍できるよう、日々のトレーニングでさらに体を鍛えていきたい」と意気込んだ。

静岡地本は、今後も新隊員の教育課程を取材し、自衛官として成長する姿を隊員家族や県民に広くPRしていく。



新隊員が重機関銃の分解・結合を実施！

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は、7月28日（火）、陸上自衛隊駒門駐屯地（御殿場市）で行われている新隊員の後期教育を取材した。この教育は、同駐屯地に所在する第1高射特科大隊が、対空戦闘部隊である「高射特科」職種に配属予定の新隊員23人（内女性4人）に対して行っているもの。

この日は、対空・対地用の自衛火器として使われる重機関銃の分解と結合の実習を行っており、まず初めに教官が分解と結合のやり方を実際にやってみせ、注意点をふまえてつ要素所で新隊員たちが理解できているか確認をとりながら丁寧に説明していた。新隊員たちは教官から教えられる部品の名称や作業手順、コツなどに真剣に耳を傾け、メモを取っていた。

教官の説明が終わると、一人ずつ順番に分解と結合を実施することに。途中、やり方がわからなくなり手が止まってしまう隊員には、教官が再度説明したり、まわりで見ていた同期たちが「そこはこうやって」とアドバイスするなど、全員で教え合いながら協力して作業を行っていた。

実習終了後、隊員からは「部品の名称や手順など覚えることが多く大変ですが、実際自分でやってみると面白かったです」「重い部品が多く、思ったより力が必要でした」などの感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も特技課程の取材を行い新隊員の自衛隊での活動を周知し、自衛隊に対する理解促進に努め、入隊志願者の獲得に繋がる広報活動を実施していく。

